

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 0871000261 | | |
| 法人名 | 有限会社ヘルスケア下妻 | | |
| 事業所名 | ケアプラザうららグループホーム | ユニット名(| ①) |
| 所在地 | 下妻市下妻戊34-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和 5年 4月 12日 | 評価結果市町村受理日 | 令和 5年 7月 4日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0871000261-00&ServiceCd=320 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 いばらき社会福祉サポート |
| 所在地 | 水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階 |
| 訪問調査日 | 令和5年6月12日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所では、家庭的な環境の中で個人の生活リズムに合わせながら、安心した生活ができるように支援しております。又ご利用者様の要望に対し極力応えてあげられるように、寄り添ったケアを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近くに商業施設が多く、国道に面した利便性の良い場所にある。付近には昔からの地域の人々がいて、畑などもあり、利用者が暮らしやすい環境にある。管理者と職員は利用者一人ひとりの個性や個性性を重視し、日々の過ごし方もそれぞれのペースに合わせている。法人所有の畑では様々な野菜が収穫でき、職員は利用者の要望を聞きながら食材を無駄にすることなくあるもので調理を行い、時にはテイクアウトや外食等にて利用者の食べる楽しみに繋げている。各ユニット内で利用者との相談して調理するため献立がユニットごとに違うこともある。職員同士は風通しが良く話しやすい関係にあることから、働きやすい環境にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 安心・信頼・満足の理念を掲げている。毎日職員で唱和して確認しています。 | 理念は事務所や各ユニット内に掲示されており、各自出勤時に確認するほか月1回のミーティングの中で振り返っている。職員は年間目標を踏まえ利用者の笑顔が絶えないように努めている | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地区のイベントに参加したり清掃活動に参加したり地域交流に努めている。現在はコロナ禍であるが出来る限り交流に努めている。町内の祭事にも参加している。 | コロナ禍で休止しているが、町内の祭事への参加、小中学生の見学や職場体験の受入れ、事業所の納涼祭への招待などを行っていた。今後状況を見て再開させていきたいとのこと。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 学校などの体験ボランティアを受け入れたり町のイベントに参加したりして支援している。納涼祭い地域の方に参加して頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期的に開催し意見交換をしながらサービス向上に活かしている、地域の方々に情報発信出来るように努めていく。現在は、コロナウイルス蔓延防止の観点から人数縮小で行っている。市役所内での開催が中心である。 | 市役所の介護保険課に事業所職員が出向いて、両方で運営推進会議を開催している。会議の内容は主に利用者の体調や事業所からの報告となっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 入居状況報告や運営推進会議への参加等頂き協力関係が出来ている。新型コロナウイルス対応を密に連携していく。 | 管理者は毎月入退所状況の報告をFAX等で行うほか、市から感染対策等の情報提供や電話にて相談にのってくれる等信頼関係が構築されている。また、市から感染対策用品の給付などがある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | すべてのスタッフが理解し明るい開放的なケアに取り組んでいる。定期的に研修会で確認している。 | 「身体拘束排除の指針」とともに身体拘束に向けたフローチャートを作成しており、委員会を年4回開催している。実際に起きた事例を基にミーティングの中で話し合い、研修記録として残している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 月1回のミーティングを利用し利用者様の尊厳を大切にし言葉使い等も気を付ける様に話合っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 施設でも高齢化に伴い必要性を感じ研修をして行きたい | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な説明を行い理解が得られる様に対応している | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日々の利用者様との談話の中から又ご家族の面会時に気軽に意見・要望等を伝えて頂き反映させている | コロナ禍では月に1回、利用者の様子を電話で報告しながら、家族等から意見を聞いていた。家族等からの苦情は管理者が聞き、代表へ報告したのち職員で話し合い、家族等へ説明する手順になっている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のミーティング等で意見交換をして反映させている。常に意見交換の機会を作り、積極的に行っている。 | ホールの動線や安全面、環境整備に関する意見が多く出ている。利用者の安全確保のために家具の配置を変える等の環境整備をしたり、業務に支障がないよう掃除機や電化製品の速やかな購入をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が働きやすい環境を整備しやりがいのある職場作りに努めている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ミーティング等で勉強会を行ったり研修会に参加する機会を作っている。職員からのリクエストを受けて再研修の機会を作っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 県内の協議会等に参加し意見交換を行っている。現在は、リモートでの参加も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 初回相談に時間をかけ対応している、不安を取り除ける様に話をしています。今までの生活習慣やライフスタイルを把握するように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 初回相談に時間をかけ対応している | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ケアマネやスタッフとも話し合い必要としている支援を見極め対応している | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 昔の様子を話して頂いたり、料理方法を教えて頂いたり和気藹々の関係を築いている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 状況報告など密に連絡を取り合い、施設でのイベント等に参加頂いたりして共に支えあう関係を築いている。現在は、コロナウイルス蔓延防止の観点からイベントを縮小している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族を通じ友人と面会して頂いたり、外出の機会を作り支援している。現在は、コロナウイルス蔓延防止の観点から電話でのやりとりも増えている。 | フェイスシートを作成している。併設のデイサービスとの交流や自宅への外出、外泊、電話や手紙の取次ぎなどの支援を行い、これまでの馴染みの関係が途切れないようにしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個人個人の個性を把握し利用者様同士の声かけあいや支えあえる関係作りに努めている。共同生活の中で個性を尊重し合う関係を作れるように、努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も気軽に相談して頂いたり、来所して下さるように支援している | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の暮らしの中から一人一人の利用者様の思いや希望の把握に努めている | 入居時に家族等から聞き取ったことをフェイスシートに記録するとともに新しい情報はミーティングや申し送り、連絡ノートなどで共有している。利用者の話を傾聴し、できる限り要望に応えられるよう努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族からお話して頂いたり本人様とのコミュニケーションの中からバックグラウンドを把握し日々のケアに努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | バイタルチェックやスタッフ間の申し送り等で状況を把握し全員が状況把握に努めている。医療連携にて看護師による健康チェックを行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 家族の意向や本人の希望を尊重して、スタッフでの話し合いの中から現状に即した介護計画を作成している | センター方式を導入し、更新ごとにケアチェック表をつけフェイスシートを起こし、カンファレンスで話し合いを行っている。またアセスメントシートで3か月ごとにモニタリングを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 業務日誌や個別の経過記録を記入し全員が共有、把握し実践、介護計画の見直しに生かしている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設のデイサービスを活かしての交流や遠足、外食の機会を作り対応している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 警察や消防への施設の存在報告や地域ボランティアへの参加 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 十分に話し合い、かかりつけ医への支援や信頼関係の構築に努めている。また往診の先生も対応している | 協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。訪問看護師が週1回来訪し、個人記録に状況を記録している。以前からのかかりつけ医へ受診する際には「状況報告書」を持参して返信欄に医師からの指示を記入してもらっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 関わりの中で気づいた事を職場内の看護師に相談したりして対応している。医療連携による看護師の健康チェックを行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院までの経過報告を初め情報交換をしながら病院との信頼関係の構築に努めている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | スタッフ間でも日々の状態把握に努め、ご家族とも十分に話し合い対応する様に努めている | 看取りを行う事業所であり、指針を作成して家族等に説明を行い同意を得ている。終末期に向けた対応マニュアルがあり、急変時対応がフローチャート化されている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ミーティングの中での勉強会や救急救命の講習を受講したりしている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署立会いの避難訓練の実施や夜間を想定しての避難訓練等を実施している | 夜間想定訓練や緊急通報システム、連絡網を使用した訓練を行っている。訓練後は反省会を行い課題について話し合っているが記録が残されるまでには至っていない。災害に備えた備蓄品はあるが管理するまでには至っていない。 | 防災訓練実施後の記録の整備や備蓄品の内容の検討と一覧表を作成し、消費期限等を管理することを期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 個人を尊重しプライバシーを損ねない様に努めている | 管理者と職員は日頃から利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけ等に配慮している。人権尊重や守秘義務については契約書に記載され、職員は毎月ミーティングの中で話し合いを行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様から気軽に自分の思いを伝えて頂ける様にコミュニケーションを取り働きかけている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人のライフスタイルを大切に出来る限り希望にそって支援している。ご利用者様からのリクエストに答えられるように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に散髪したり、積極的に自分で衣服など選べる様に支援している。衣類や趣向品を一緒に買物に出たり支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節感のある食事や好みの料理などを工夫しながら自家栽培で採れた野菜などを利用し準備や調理など出来ることを共に行っている。また、好き嫌いがある方に対しては、配慮して提供している。 | 外食が困難な時期はお弁当を購入したり、スーパーでお刺身等を購入して海鮮丼等にするなど利用者の要望に応じている。最近では個室が借りられる店舗に外食に行き、利用者の楽しみに繋げている。おやつもなるべく手作りの物を提供している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の摂取状況を把握し支援している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 健康状態に応じた方法で行っている。また、口腔内の確認も行い、異変がないかチェックしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄の状況を記録し、排泄パターンを把握し支援している | 排泄チェック表からそれぞれの排泄パターンを把握し声をかけて誘導、できるだけトイレでの排泄を支援している。1階の利用者は居室からトイレまでの距離が長く、声掛けしながら歩くことで下肢筋力の低下防止に繋げている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 規則的な生活を送り排便習慣が確立できるように支援する | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 時間を問わず入浴が楽しめる様に体制を整え支援している | 入浴は基本週2回としているが利用者の意向に沿っていつでも入れるよう支援している。希望があれば同性介助に対応している。着替えの準備を職員と一緒にいるなどしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々のライフスタイルを尊重し安心して休息睡眠できるように努めている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ミーティングを利用し副作用や用法などを把握し状態観察をしながら支援している。又薬剤師さんに服薬指導をして頂いている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 集団生活の中での楽しみや役割をみだせるように支援している | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルスの感染者状況に応じて、個々の状態や希望を確認し外出の機会が取れる様に努めている。 | 利用者の体調や天候に合わせてベランダや中庭での日光浴や外気浴を行っている。また、少人数でドライブで花見等を行い気分転換を図っている。最近外食支援も再開し、利用者の大きな楽しみの1つになっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 原則的にはスタッフが管理しているが、希望に応じて使えるように支援している。また買い物をお願いする方に対しては、快く承諾している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙や電話等いつでもやり取り出来る様に支援している。電話での面会が増えてきている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | どこでも休息出来る様な空間を作り生活感や季節感を取り入れた居心地の良い空間作りに努めている。又季節感を大事に装飾している。 | 食堂兼居間には近所の方から頂く季節の花が飾られており、イベントや外出時の写真が多く掲示されている。テレビの前にはソファがあり利用者の寛げる場になっている。中庭は芝生になっており一角には手摺があり歩行訓練等に使用されている。四季折々に楽しむことができる木々が植えられ、手入れが行き届いている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下やリビング等自由に過ごせる空間作りに努めている。又庭先にもベンチを置き過ごせる環境を作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 今まで使用していた馴染みの物などを配置し居心地の良い空間作りに努めている。思い出の写真を置いたりしている。また、思い出のものを持ってきていただいている。 | 居室入口に名前を掲示し、居室を間違えることを防ぎ、ドアに暖簾をかけてプライバシーの保護をしている。自宅で使用していた椅子など、馴染みのものを持ち込んでいる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室内の配置やトイレ、廊下等の手すりなど安全に出来る限り自立した生活が送れるように工夫している。手すりを使った立ち上がりの練習なども行っている。 | | |

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 ケアプラザうららグループホーム

作成日 令和 5年 6月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|----------------------------|-------------------|-----------------------------|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | 災害対策においての、備品及び備蓄品の管理をして行く。 | 災害時の備蓄品の管理を明確にする。 | 備品及び備蓄品を一覧表にして管理できるようにして行く。 | 6ヶ月 |
| 2 | | | | | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。